

東北中央自動車道に期待する これからの整備効果

山形市



位置関係



産業団地の配置状況



立地件数の推移

[蔵王産業団地・蔵王みはらしの丘]

年度	H23	H24	H25	H26
立地件数	1	2	2	4

- 景気回復
- 東北中央自動車道(山形上山IC～福島)の平成30年度供用開始が示され、山形市の交通利便性が高いことが認識されつつある。

山形中央インター産業団地の状況



分譲面積: 9.9ha
分譲価格: 10,300円/m²

最寄りの交通機関からのアクセス

高速道路	国道
東北中央自動車道 山形中央I.C.	112号
2km【2分】	4km【8分】
鉄道	空港
山形新幹線 山形駅	山形空港
6km【10分】	21km【20分】



これからの期待

企業立地の促進

高速交通の利便性が向上し交通の要所として評価が高まることで、企業立地が進むことが期待される。また、首都圏や宮城が中心としたターゲットのほか、福島や秋田からの立地にも期待。

取引拡大

従来、山形自動車道を中心に進んでいた物流に加え、南北の東北中央自動車道の開通により、宮城との物流に加え、福島・秋田と新たなものの流れが生まれることで、取り引きの拡大が期待される。

交流人口の増加

山形自動車道開通以降、山形、仙台は仙山交流という名称で、人の交流（通勤・通学）、ものの交流（物産・観光）が活発化してきた。福島-山形市が1時間圏内となることで、福島との交流拡大が期待される。

スマートインターチェンジ(IC)設置の検討

平成30年度の福島から東根間の開通、その後の秋田県境までの連結

東北中央自動車道の交通量の増加

地域の産業、人・モノ・情報の交流の活性化

スマートICの設置

更なる高速道路の利便性の向上

更なる地域経済の好循環化

- 高速幹線道路網と国道・都市計画道路との連携によるネットワークの高度化により、県内外の物流の円滑化による地域経済の活性化が図られる
- スマートICの設置により、**東北中央自動車道の整備効果を更に高め、更なる地域経済の好循環化を目指す**
- **今年度から、スマートIC設置の好適地の選定を初めとした調査・検討を開始**

(仮称)山形パーキングエリア(PA)の活用による地域の活性化

